

## 第 60 回日本リハビリテーション医学会学術集会参加報告書

片本 隆二

総合せき損センター 医用工学研究室

2023年6月29日(木)～7月2日(日)に福岡(福岡国際会議場、福岡サンパレス、福岡国際センター)で開催された第60回日本リハビリテーション医学会学術集会に参加しました。

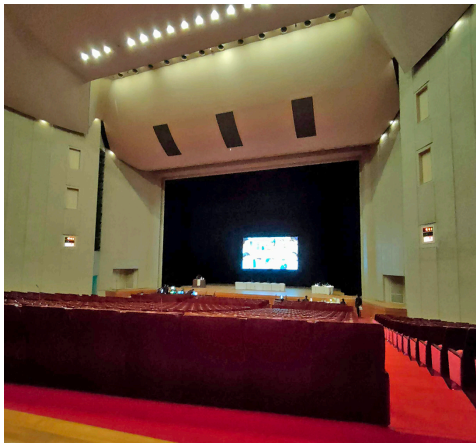


図1 福岡サンパレスの会場写真

日本リハビリテーション医学会学術集会は、リハビリテーション医学の分野で活動する多くの専門家や研究者が集まるイベントでした。専用ホームページでは4,500名超が参加登録をし、そのうち3,000名超が現地参加したことが報告されています。

教育公演が学術集会の中核を占めており、参加者にさまざまなトピックに関する知識を提供する役割を果たしていました。これらのセッションは非常に多岐にわたり、リハビリテーション医学のさまざまな側面に焦点を当てています。

私は電気刺激の応用範囲に関する情報収集を目的に参加しましたが、特に印象的だったのは、多職種協働で行う臨床研究のマネジメントに関する教育

公演でした。集まった臨床研究のメンバーがいつの間にかフェードアウトしていき、開発者が開発品を抱え込んでしまう、といった状況に陥ることの多い私たちの実務に、マネジメント分野の手法は改善をもたらす可能性があると感じました。

学術集会では非会員の関連専門職のためのポスター、口演の2形式のセッションも行われました。医師・歯科医師以外の場合は参加費を抑えて、参加をやすくしているようでした。技術開発者に加えて、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、義肢装具士、管理栄養士、臨床工学技士、臨床心理士(公認心理師)、歯科衛生士、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、薬剤師、精神保健福祉士等といったリハビリテーション医療・福祉専門家からの演題を募集していました。抄録は文字のみ(全角650字まで)でした。私はポスターセッションにて、スコープカメラ付き坐薬挿入器に関する臨床実践に関する発表を行いました。

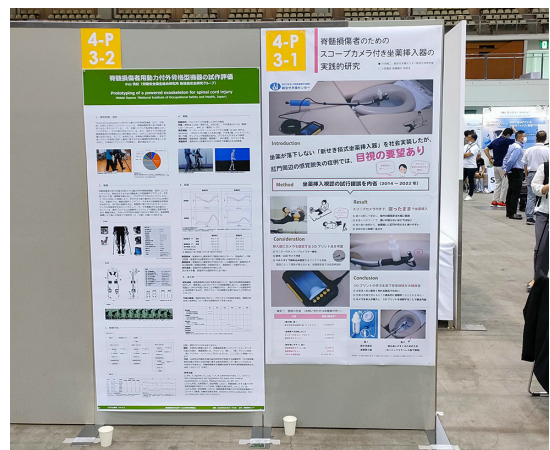


図2 ポスターセッションの会場写真

参加者の中には、リハビリテーション医学の専門知識や経験が豊富な方々が多く、彼らから学ぶことができたことは大きな収穫でした。

総合せき損センター 医用工学研究室  
〒820-8508 福岡県飯塚市伊岐須 550-4